

聖学院大学総合研究所 カウンセリング研究センター 2019年度 牧会電話相談年次報告

1. はじめに

2019年度も相談件数は多くはなかったが、相談内容から判断して相談者の所属する教団内では相談しにくいと思われるケースばかりであった。その意味でこうした公的性格をもった相談機関が設置されている意義の大きさを改めて認識させられた。

2. 相談概況

○牧師と宗教法人との関係

教会の宗教法人は、単立教会でなければ通常は同じ事業目的（宣教活動）をもつ教会の集合体である宗教法人（被包括宗教法人）に包括されているが、相談者から寄せられた悩みは、加盟している宗教法人が特定の教団ではなく、複数の教会や宣教団体などが加盟している超教派の宗教法人をめぐる問題であった。こうしたケースは珍しいものではなく、加盟している教会や団体が普段からコミュニケーションをよくしておく必要があることと、できれば各々が独自の宗教法人格を取得することを勧めた。

○牧会者自身のメンタルヘルス

牧会には牧会者の精神的健康性が大切な要因であるが、しばしば強度のストレスのため健康性が損なわれる場合がある。代表的な疾患はうつ状態・うつ病であるが、それとリンクして「依存症的」な悩みを抱えている場合も珍しくない。当牧会電話相談ではこうしたケースは初めてであった。相談者は自らその傾向を知っており、対応の仕方も知識として理解しているようだった。対処の仕方としては様々な方法が考えられたが、時間の制限もあり、傾聴と常識的なアドバイスをするのに留めた。

○複数牧会における教会運営

しばしば見られるケースであるが、現任牧師が

その教会に属する前任牧師や伝道師との関係に気をつかい、時には両者の関係が円滑にいかなく、大きなストレスになることがある。そのため教会運営が難しいという相談であった。このような問題の相談事例は当相談室に以前にもあったが、この年のケースは個人の問題もさることながら役員会組織や教会員の人間関係などの構造上の問題とも考え、運営の仕組みや約束事を明確にする必要があるとアドバイスした。

○特定の役員との関係構築

相談者の悩みは、ある役員との円満な関係を構築できないという問題であった。よくあるケースであるが、相談の時点では辞任したいという深刻な状態であった。牧師がこのような気持ちになることは珍しくはないが、早急な決断を避け、心理的な距離を取るか、一時休職をすることを勧めた。

（文責：堀 肇 [ほり・はじめ] 聖学院大学総合研究所特別研究員）

本
書籍のご案内

お近くの書店、Amazon.co.jpからお買い求めいただけます。

ヘンリ・ナウエンに学ぶ

平山正実・堀 肇 編著

2018年2月1日（3刷）発行
2,200円（10%税込）

人々の孤独を理解し、
共苦から希望へと導く
ナウエンのアプローチを学ぶ。





聖学院大学出版会 TEL:048-725-9801 FAX:048-725-0324
URL:https://www.seigypress.jp